

知事賞

きれいな水をまもって いこう

浜松市立光明小学校

二年 片桐 さん

ぼくは、川でさかなをとるのが好きです。家の近くの川でお父さんやおじいちゃんといっしょにとります。とれたときはとてもうれしくて、さかながいる川が近くにあつてよかったなと思います。でも、その川のすみにごみながれてきているのを何回も見ることがあります。それを見るとぼくはいやな気持ちになります。きつとさかなもいやだろうなと思っていました。

だからさいきん、川に水がないときにおじいちゃんごみをひろっています。なつになつて水がまたながれるときにきれいな水でさかながおよげるといいなと思ったからです。そのことをお母さんにはなしたら、

「とつてもいいことをしてくれてうれしいよ！」

といって、水についていろいろなお話をしてくれました。ぼくが一ばんびつくりしたのは、地きゆうにはたくさん水があるけどほとんどが海の水で、人間がつかえる水はほんの少ししかないということでした。

ぼくは毎日、水どうから水を出してのんでいるし、お風呂に入ったりプールにも入ったりしているから、つかえる水が少ししかないなんてしんじられませんでした。たくさんつかいすぎると、いつかたりなくなってしまうかもしれないので、大切につかわないといけないと思いました。

それにぼくたちがきれいな水をたくさんつかってよごし

ていると川や海の水がよごれて、生きものがすめなくなることもおしえてもらいました。

ぼくたちのせいで川のさかながいなくなるのはさみしいし、かなしいことだと思います。だから、これからも川にさかながすんでいられるような水にしていきたいです。

そのためにぼくが今できることをかんがえました。一つ目は、水のむだづかいをやめることです。つかうときにだけ水を出すように気をつけます。二つ目は、シャンプーやせんざいをつかいすぎないことです。さかなたちがきれいな水の中ですんでいけるようにします。

ぼくたちが水を大切につかえば、もつともつときれいな川や海になるので、さかなたちのためにも、きれいな水をまもるように気をつけてつかおうと思います。